

第103回 **全国高校野球**
青森大会
第7日

聖愛5点差逆転

光星、3回以降連打出す

【評】聖愛は終盤の粘る八回、丸岡の三塁打でりが光った。1点を追う無死三塁とすると、佐藤七回、木村の右中間への海の右前適時打で勝ち越本的を絞らせなかった。本塁打で同点。勢いに乗八学光星は二回までに

5点を先行したものの、三回以降は連打が出ず、1得点のみ。森、洗平、横山の継投も実らなかった。

主将が殊勲の一打
○…聖愛が夏の甲子園に出場した2013年以来、8年ぶりに八学光星に勝った。「ずっと勝てなかった（因縁の）相手に勝ててうれしい」。主将佐藤海は笑顔だった。八回無死三塁の勝負どころで右打席へ。「つなぐ気持ちで」外角のスライターを流し打ち、試合を決めた。「まさかこれほどの点差をひっくり返すとは」と原田監督も驚きの表情だった。憧れの

きよしの試合



聖愛に逆転負けを喫し、悔しそうな表情で整列する八学光星ライン

舞台まで、残り2勝。佐藤海は、「油断した時点で負け。どの高校が相手だろ」と勝つ」と意気込んだ。一発で流れ変わる
○…「勝てた試合だった。去年、大会がなかった分、先輩の分も甲子園に出たかった」。八学光星の最後のマウンドに上がった洗平が同点本塁打を浴びた。「あの一発で完全に流れが向こうにいつてしまった（仲井監督）。焦りは打撃にも影響は、道半ばで終わった。五回に1点リードを奪ったことで、流れは八学光星に傾いていた。ところが七回、先発森に代わって、救援のマウンドに

立った洗平が同点本塁打を浴びた。あの一発で完全に流れが向こうにいつてしまった（仲井監督）。焦りは打撃にも影響は、道半ばで終わった。五回に1点リードを奪ったことで、流れは八学光星に傾いていた。ところが七回、先発森に代わって、救援のマウンドに上がった洗平が同点本塁打を浴びた。あの一発で完全に流れが向こうにいつてしまった（仲井監督）。焦りは打撃にも影響は、道半ばで終わった。五回に1点リードを奪ったことで、流れは八学光星に傾いていた。ところが七回、先発森に代わって、救援のマウンドに